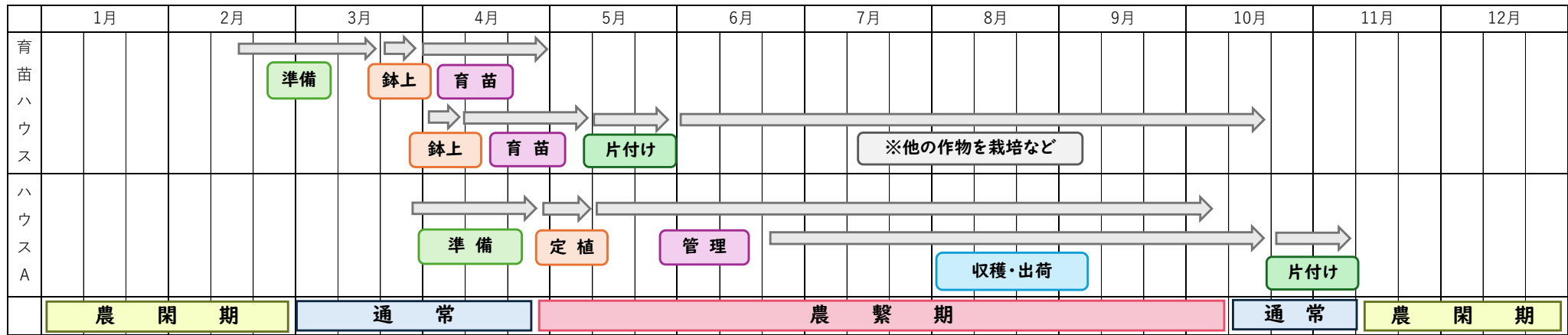
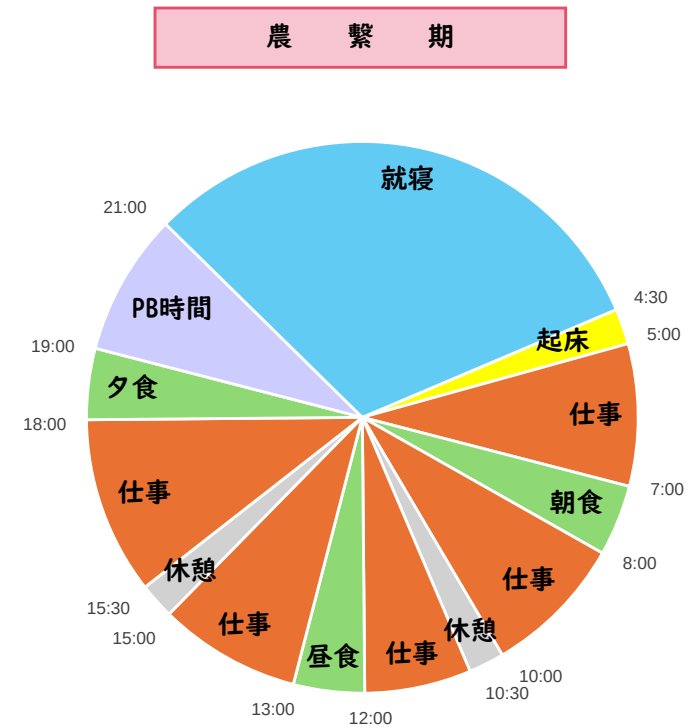
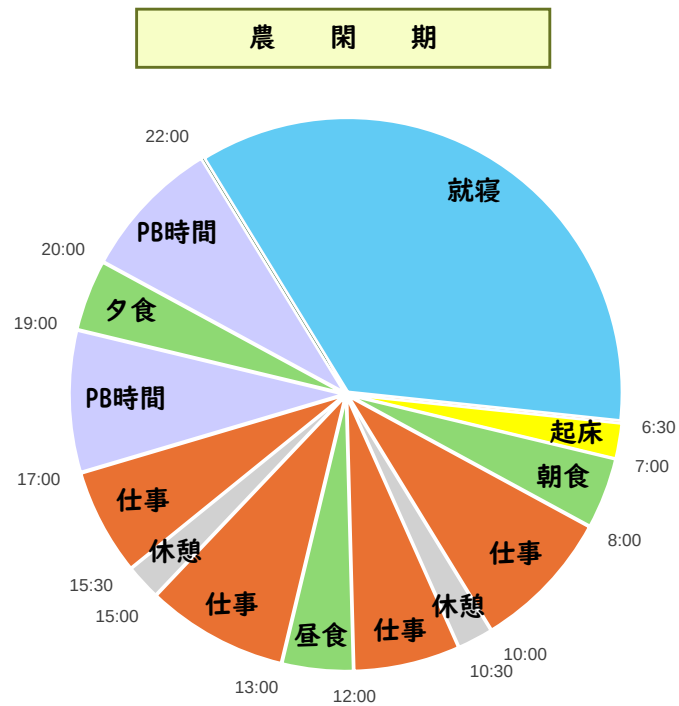


* 年間スケジュール *



* 研修生のとある1日 *



準備

①融雪剤まき・除雪

- ・1回目は1月下旬～2月にかけて、2回目は3月上旬に行う。
- ※1回目は雪の下になってしまうが、全体の積雪量を減らすことができるので2回に分けてまく。



②残さ処理・ハウスパイプ修繕

- ・雪が溶けたら去年の残さが出てくるので、レーキで集めて処理する
- ↓
- ・雪の重さでハウスの肩パイプが歪んでしまっている部分を真っ直ぐにする



③ハウスのビニール張り

- ・すそ→防虫ネット→巻上げ→天井→バンド→妻面の順で行う
- ※天井のビニール張りは、風のない早朝に行うことが多い



④ハウス内整備（育苗ハウス）

- ・二重ビニール張り
- ↓
- ・土を均し、防草シートを敷く
- ※できるだけ平らにしたほうが、定植準備の際に手間が減る
- ↓
- ・電熱線、ボイラーなど育苗に必要なものを準備していく

⑤土壌準備（ハウスA）

- ・サブソイラーをかける
- ↓
- ・堆肥をまく
- ※去年の秋、片付け終了後にまいて雪の下にすることもあ
- ↓
- ・肥料をまきロータリーでおこす
- ※去年の秋に行った土壌診断をもとに肥料を選ぶ
- ↓
- ・マルチャーで高うねにしながら、かん水・点滴チューブと一緒にマルチをかける
- ※地温を上げるため、定植日の約1週間前に行う



鉢上げ



①ポット準備

- ・ポットをポットトレイにセットする



- ・ポットトレイを専用の台に置き、土を詰める



- ・温湯ホースの上に並べる

※地面が平らでない所は温湯ホースの温かさが苗全体にいきわたらない為、ハンマーでたたき平らにする



- ・水をひたひたになるまでかける

※すぐに鉢上げをしない場合は、土が乾かないよう上からビニールをかけておく



②鉢上げを行う

- ・指で土に穴をあけ、苗を置き土をかぶせる

※成長していない苗、小さく元気のない苗などは除き、良い苗だけを植えていく



③トンネル設置

- ・三重用のトンネルを等間隔で設置しビニールをかぶせる

育苗

①ビニールの開閉

- ・天気、気温、風向きなど見ながら、二重三重ビニールと巻上げを開閉する
- ※特に夕方は当日の気温だけではなく、翌朝の気温もみて開閉する



②水やり

- ・天気次第で朝、水をあげる
- ※苗の状態をみながら液肥も混ぜる



③苗の観察

- ・しおれていたり成長がおかしい苗などがいないか日々観察する
- ※ネズミに食べられてしまうことが多いので、あらかじめネズミ用の薬などを置いておくといい
- ↓
- ・必要であれば、鉢上げの際にはじいた苗から元気そうな苗に植替える（異形株、生長点不良など）



④摘芯・芽かき

- ・2本立てにする為、本葉1枚目と2枚目を残し上を切る
- ・それぞれの脇芽を伸ばし双葉の脇芽は欠く



定植

①定植準備

- ・マルチに穴をあける

※マルチの下に点滴チューブを敷いているので、傷をつけないよう等間隔であける



②定植

- ・あらかじめ苗に水をかけ湿らせた状態にしておく

↓

- ・花芽が通路側に向くように植える

※収穫しやすくする為

↓

- ・土をかぶせ上から押さえる



③支柱たて

- ・単管パイプをハウスの前後に設置

※苗が成長したときに全ての力がかかるためとても重要

↓

- ・設置した単管パイプにワイヤーを取り付け、たゆまないようにできるだけ真っ直ぐピンと張る

↓

- ・等間隔で苗と苗の間に支柱をさす

↓

- ・ワイヤーを支柱の上に開けた切り込み部にかける



④誘引ネット張り

- ・長いもネットをワイヤーに通し後ろまで引っ張る

↓

- ・支柱全てにネットを麻糸で縛り付ける

※ ③支柱たて・④誘引ネット張り は一例で、農家さんによってやり方は様々

管 理



①防除・液肥・トマトーン散布

- ・高温障害を防ぐため、気温の低い朝や夕方に行う
- ・生育や天候を見て種類を判断し、理想は毎日～3日に一度液肥葉面散布を行う
- ・週に一度を目途に農薬（殺虫剤、殺菌剤、防ダニ剤など）散布
- ・トマトーン（着果促進・成長調整剤）は二度がけにならないよう注意し、開花の前後3日を狙って花のみにかける



②水やり・温度管理

- ・生育に合わせた適温になるよう側窓（巻上げ）を上下し常に温度調整を行う
 - ※夜温最低気温15℃以上になれば夜間も開放する
- ・最高気温が30℃に達する時期を目途に遮光ネットを設置、曇天が続くようであれば外して日射量を確保する
- ・水やりは基本毎日。生育状況、時期により1～2L/株必要となる
 - ※少量多かん水が理想



③芽かき・誘引

- ・脇芽や二次成長（花芽の先端から生える芽）を欠いていく
- ・花芽や茎折れに注意してネットに誘引する

④花かき・葉かき

- ・花が1段30～40個になるよう調整する
 - ※花芽の先になればなるほど小さい実しかできなくなるので、調整することで上に養分がいく
- ・成長に不要な葉や枯葉をかくことで芽かき・花かき同様の効果があり、通気性も良くなる



収穫・出荷



①収穫

- ・出荷予定、天候などから色目を判断し収穫
- ・奇形や割れ、くすみ果など規格外のものは収穫し捨てる

②出荷

- ・農協共同選果場に持ち込み、SS～2Lまで自動選果機でサイズ分けされる
- ・一箱約3kgとなり、各市場へ出荷される



片付け

①冬を迎える準備

- ・トマトの苗を切り倒し、マルチ・点滴チューブなど全て片付ける
 - ・ハウスのビニールをはがす
- ※雪が降ると大変になるので、収穫を切り上げるタイミングが重要



その他



①除雪

- ・実習農場の倉庫やハウス周りの除雪を定期的に行う
- ※特に春先は、定期的に行うことで雪解けが早くなり、ハウス整備も早く行うことができる

②花・野菜技術センターのセミナーへ参加

- ・夏季のセミナーでは、技術センターで研修を行っている生徒さんに直接話を聞くことができ、実際のほ場を見学することができる
- ・冬季のセミナーでは、座学でミニトマト以外の作物や土壌についても学べる



③ミニトマト部会の会議や町外視察への参加

- ・先輩農家さんとの交流や町外の圃場を視察することは、セミナーとは違う情報や技術など得られとても勉強になる



④トラクタ研修

- ・北海道立農業大学校（本別町）にて農作業機の基本操作から簡易整備方法まで、農業を行う上で必要な知識や技術を学ぶことができる

⑤ZOOMセミナー

- ・上記以外にも「スマート農業について」など、農業に関するセミナーがたくさんあるので自分で調べて参加する
- ※役場や農協さんから情報をいただけることもあります